



令和5年度
10月号

★教育目標 郷土を愛し、未来を築く人間の育成
・健康な生徒(体) ・創造する生徒(知) ・実行する生徒(意) ・感動する生徒(徳・情)

★重点教育目標 「自ら学び鍛え 良さを伸長し合える生徒」の育成

二海郡八雲町東雲町 31 番地1

E-mail: yakumo-jh@town.yakumo.hokkaido.jp

「9年間の成長を支える」

校長 柴野 貴史

秋も深まり肌寒くなってまいりました。夏の暑さから解放されたと思ったら、次は冬の寒さを乗り切っていかなければなりません。冬は寒さだけでなく雪かきをしなければならず、体を使う場面を想像すると落ち込んでしまうのは、私だけでしょうか。

さて、先日、浜松小学校の学芸会と八雲小学校の学習発表会の様子を見に伺いました。浜松小は全校生徒5名の学校です。今年は6年生がおりませんでした。5年生の男子児童を筆頭に全児童が、一人でたくさんの役割をこなして学芸会を運営していました。全校劇では、笑いを誘う熱演に、会場がほっこりと温かくなりました。どの演目も明るく元気に一生懸命取り組む姿は、とても素晴らしいものでした。合唱の練習を積み重ね、器楽演奏は何度も失敗や成功を繰り返して、当日を迎えたものと感心しました。

一方、八雲小学校は、全校児童は400名を超える規模ですので、前半1～3年生、後半4～6年生の二部制でした。前半は浜松小に行っていましたので見ることはできませんでしたが、後半の5年生の器楽演奏と4年生の落語、そして6年生の演劇を観覧させていただきました。普段の学習の成果を遺憾なく発揮していました。たくさん児童がいる中でも工夫され、一人一人に役割があり、それをしっかり担っていました。どの演目も内容はもちろんのこと、児童のハツラツと輝く姿に魅了されました。

このような二校の学芸会、学習発表会を見て感じたことは、中学校の生徒たちも、それぞれの小学校で多くのことを学び、表現活動を行ってきた。その過程の中では、仲間とともに協力して取り組むといった経験を積み重ね、成長してきたことをあらためて感じました。

今後も小・中学校9年間の学習と生活の連続性を重要視するとともに、良い面だけでなく中学に入学したときに起こる学習意欲の低下や「中1ギャップ」の解消のために、我々教職員が児童生徒の成長を9年間にわたり支える意識を高めることが必要であり、本校の教職員には、小中の連携事業や町教研など、小学校の先生方と関わる機会を通して、積極的に交流させていきたいと考えています。

保護者の皆様には、これからも9年間を見通した我が子の成長を考えると、本校の教育活動に対して、ご意見とご協力を併せていただきますようお願いいたします。